

たし候

〔先哲叢談<sup>六</sup>〕南郭某歳元日訪徂徠徂徠方隠几閱孫子面垢不洗髮亂不梳若不知新年者乃疊々談兵不置南郭竟不得祝新禧

〔落葉の錦<sup>上</sup>〕安田氏藏

年始御禮拜受帳

本居中衛

此鈴屋大人の年始禮帳の表書は大人寛政十二年の冬めされてまゐられ此府にて十三年の春をむかへられたるをりのにてこも其時玄のぼる、物なればとてはしつかたに白き紙のあるにこれらのよし一くさりと持ぬし安田のいはる、まゝに筆とりてかくゑるすになむ

天保十年三月

殿村安守

〔玉川砂利〕二丁町にて櫻井といふ茶屋ばかり元日の夜の火災にあひても二日の朝麻上下にてすり物を持って年禮を勤しと云

訪父母

〔成氏年中行事<sup>正月</sup>〕朔日<sup>○中</sup>朝ノ御祝<sup>○中</sup>此御祝過テ公方様始テ大御所様へ御出御酒三獻ノ後御退出是又御吉例也

〔幕朝年中行事歌合<sup>上</sup>〕十二番 左 進膳

うちなびくかすみの眞袖東風ふけば西の御とのおものたつ也<sup>○中</sup>

判云、うちく仕る者ならでは問安視膳の御孝道も伺ひ得ざる事おほかるべし<sup>○中</sup>

進膳と申は年の始の賀に御所の西城にならせ給ふなり宿老少老の人々あらかじめ彼殿に参り大廣間の廣庭に出仰へ奉り西の御所にも四の間のはとりまで出迎はせ給ひ先導有ておまし所にいらせ給へば御身づからのし蛇を進めおもの参らせらる三卿の方々にも御土器を賜ひ御次にして饗膳を出さる宿老少老近侍の輩にも料理をたまふ此日西の御所に参